

ホーム名：グループホーム楠根の里 一階					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念（その人らしく、心身共に穏やかに、楽しみや、張合いのある暮らしをする）を掲げ、地域密着の意義を、全職員が理解するように常に話している。	理念は、正面玄関を入るといつでも誰でも目にする事ができる場所に掲示されている。理事長と管理者は、職員への日々のケア支援の中で、理念が実践できるよう分かりやすい説明に心がけている。	継続して、理事長と管理者が理念の実践に向けてのお手本を示しながら、職員一人ひとりが日々成長されていかれることに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩では、近所の人達と挨拶を交わしたり、毎月、小学より便りを届けて頂き、参加の声掛けを頂いている。	自治会加入や近隣小学校の各種行事への参加。地域の独居高齢者に対する鍵預かり支援やボランティアの受け入れ等を通じて、地域との相互交流が活発に行われている。	継続して、地域の高齢者支援やボランティアの受け入れ等を通じて、地域の一員としてなくてはならない役割を担うようになっていかれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年から、社会福祉会主催の地域での独居の方の鍵預かりをさせて頂き、地域で安心され、生活が出来る様、支援させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方を交え、二か月に一度、開催している。ホームの現状報告、活動報告、今後の活動報告を行い、ホームで話し合いを実施中。昨年4月から民生委員が参加されている。	地域との相互交流は活発に行われているが地域の方の会議へ参加がほとんどないため、民生委員の方を通じて、参加を呼びかけている。地域の方からも意見を出してもらい、さらなるケアサービス向上に取り組もうとされている。	他のグループホームに参考になる取り組みも多いので、市の担当者を通じて、他のグループホームの管理者にも運営推進会議に出席して頂くことも検討されてはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の開催日時を伝え、議事録を送付している。また、寝屋川元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れ施設として、毎月実施表を送付している。	市担当者の運営推進会議への参加は、タイミングが合わず、不参加ではあるが、いつでも気軽に施設見学等に対応できるような態勢を取られている。	市の元気アップ介護予防ポイント事業への協力等、市への協力をできる範囲内で継続して頂き、市との連携を深めていかれることに期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	元々の設備上、外出時の扉はカード鍵が必要であるが、事務所の扉を開けることで、開放的になるよう努めている。どのようなことが身体拘束になるかをスタッフと共に話す機会を設けている。	正面玄関や1Fから2Fへの通路は、利用者様が安全安心に過ごせることを重視し、施錠されている。共有空間や利用者様の居室は開放感あふれる様々な工夫がされていて、職員と利用者様の笑い声も響き、明るい雰囲気を出している。	理事長、管理者と職員はチームとして、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。職員の手作りによる様々なレクリエーション、自宅にいるように過ごしてもらえような空間作り等認知症周辺症状の緩和にもつながる取り組みは、身体拘束をしないケアの取り組みにもつながると思われる。今後は、取り組み結果を検証、評価し、次の取り組みに活かしていられることを期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことのないよう、スタッフ間で話し合いを行い、防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	職員へ権利擁護の理解を持ち、活用出来るよう努めている。一昨年の7月から一階の入居者が成年後見人制度を利用されている。			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時、解約時は、家族様に対し十分な説明を行い理解、納得に努めている。			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に意見箱を設置し、いつでも感じたことを書いて頂けるようにしている。ただ、なかなか活用に至らない。	理事長と管理者は、利用者様や家族様といつでも余裕をもって話を聞くことができる態勢を取られている。又、利用者様や家族様から出された意見等は、迅速に対応し、その結果も迅速にフィードバックされている。	利用者様や家族様の話に余裕をもって聞き、迅速に対応するためには、業務運営の効率化が進んでいないと対応できないと思われる。継続してさらなる業務運営の効率化にも取り組んでいられることに期待したい。
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	スタッフと信頼関係を持つことで、意見、提案を聞き、反映出来る様、努めている。	理事長と管理者は、職員の方といつでも余裕をもって話を聞くことができる態勢を取られている。又、職員の方から出された意見等は、迅速に対応し、その結果も迅速にフィードバックされている。職員は話を整理し、スムーズに管理者と話しを進めるため、連絡ノートを活用されている。	理事長と管理者は、職員一人ひとりの成長を考え、成長につながるよう的確にアドバイスをされている。職員は、自ら考えて行動し、いつでも気軽に意見を出されている。継続して、職員一人ひとりの成長を見守って行って頂きたい。
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員が、やりがい、向上心を持つことが出来る職場環境、条件の整備に努めている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修を各職員に行ってもらい、研修後は研修の記録を記入してもらい、すべての職員が参照し、捺印を行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	地域包括主催の地域ケア会議への参加、CM事業所の連絡会の参加を通し、ネットワーク作り、勉強会に努めている。		

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、各職員へ入居者の情報を伝え、入居者の理解に努めてもらい、職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、入居者との信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、家族様が困っていること、不安、要望を傾聴し、職員間で共有し、日々の様子観察を報告することで、家族様との信頼関係につなげている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援の見極めには本人、家族様の訴えを傾聴する姿勢を大切にしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>8名の方が、家庭的な雰囲気でごせるよう、職員は、個々の方を理解し、支えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と職員がともに、本人を支えていけるよう、日々の様子を家族様にしっかり報告し、共に支えている関係を築いている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまでに大切にきた馴染みの人や場所との関係を家族様から聞き、継続できるよう支援している。</p>	<p>利用者様が、気軽に馴染みの方を施設ではなく自宅に招くように場（施設環境）づくりと人（職員）づくりに取り組んでいる。</p>	<p>家族様にも左記の取り組みを理解してもらい、特に施設への訪問が疎遠な家族様に利用者様の馴染みの方を連れてきてもらう等考えてみてはどうか。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の様子観察、担当者会議を通して、利用者間の関係の理解に努めている。入居者間の関係が円滑になるよう居室変更を実施することがある。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了されても、引き続き、相談をされるよう声掛け行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるための相談					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切に、家族の方を交え、話し合いの機会を持っている。	利用者様の思いや意向の把握に際し、職員は余裕をもって明るく和やかな雰囲気です話を聞かれています。利用者様からお聞きした内容は、家族様とも共有されています。	職員一人ひとりが利用者様の思いや意向の実現に向けて、コミュニケーション力の向上も必要となるが、職員自らどうしたらうまくコミュニケーションが取れるのかを考えて行動されている。管理者は、利用者様と職員のやりとりを聞きながら、手助けが必要とするときにはさりげなく支援をされている。継続して管理者は、職員の成長を支えていきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様に聞くこと、以前のCMからの情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を日々の申し送りの中で理解している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者がいつも総合的に把握し家族様、関係者へ連絡調整を行い、介護計画、モニタリングに反映している。	管理者の方がチームリーダーとして、職員やケアマネと協議、家族様とも相談し、利用者一人ひとりの介護計画変更に対応されている。利用者一人ひとりの変化をデータ化し、前回の介護計画変更からどのように変化したのかを分析もされている。データは分析しやすいように整理がなされている。	左記の介護計画変更プロセスの透明化は、利用者様と家族様の安心と信頼感にもつながると思われる。継続して、さらなる介護計画変更プロセスの透明化に取り組んでいかれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるため、柔軟な考えを持つよう努めている。1Fは、塗り絵、読書、パズル、将棋、ドリル等、積極的にされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括からお誘いを受け、公民館での体操教室へ参加され、地域の方との交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を実施し、また精神面の不安定な方が、不穏なく過ごされるよう、主治医以外の医師に来ていただき処方処方の検討をされている。	訪問診察に際し、利用者様ひとり一人が、医師との十分な診察時間が取れるよう前回診察時からの状況の変化を管理者で整理、とりまとめて事前に医師に連携をされている。医師は、利用者様の状況の変化を事前に把握した上で、診察されている。	医療機関が診察時に必要となる利用者様の前回診察時からの状態の変化を管理者は把握されている。このためには、日々、管理者は、利用者様の状況把握と職員との意見交換をしておく必要があると思われる。今後も継続して日々、取り組んでいかれることに期待したい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師の勤務がない為、管理者が直接、医師に上申し、指示を仰いでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時は、病院側へアセスメントを渡し、退院時は病院側の相談員、病棟の看護師を交え、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状の悪化時はホームで出来ることを家族様へ伝え、理解して頂き、入院を視野に入れ、対応している。</p>	<p>重度化や終末期の利用者様にベストな対応を行うための取り組みとして、職員の研修への参加や家族様との相互理解と迅速な医療行為を行うための確認書の取り交わしを行っている。家族様の理解と同意も問題なく頂けている。</p>	<p>今後、利用者様の高齢化が進む中で、看取りも多く経験されていくと思われるが、利用者様と家族様の不安が少しでも和らぐよう支えさせて頂きたいと願う。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応を掲げ、すべての職員が実践出来るよう努めている。また、全入居者の家族様から延命措置に関する意思確認書を頂いている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は年二回実施し、スタッフの周知に努めている。今年は消防の方と12月に合同訓練を検討している。</p>	<p>施設内外は、職員だけが利用される場所も含めて、整理整頓と清掃が行き届いている。災害発生時には、利用者様の避難する導線上に避難の妨げになるものもなく、必要な物の準備や持ち出す物も整理されているので、職員が慌てずあせらず、対応できる状態にある</p>	<p>災害発生時の利用者様避難時、女性職員だけでは体力的に不安もあるかと思われるが、救助担架や搬送用おんぶひも等女性職員にもやさしく設計された設備を充実していかれることに期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員へ人格の尊重と、プライバシーの確保の大切さをしっかりと職員に認識してもらっている。</p> <p>職員は1階2階と交代勤務で、利用者様の顔や性格など把握しており軽度の方、重度の方への接し方など職員同志の連絡ノートも充実しており、より一層手厚い配慮をされている。</p>	<p>利用者も職員も全員を知っているので、色々な変化なども分かりやすくし細かな支援を続けていって頂きたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>傾聴を大切にして、その中で、希望の表出を導き出すよう努めている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴、昼寝、レクリエーション等、利用者一人ひとりのペースに合わせてながら支援している。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>何を着るか本人に聞きながら、対応している。季節の変化を考慮し衣服の整理整頓を行い、補充の依頼を家族様に伝え、持参して頂いている。清潔不潔区分の困難な方はホーム側で管理している。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>TVを中断し、CD を聞いて頂きながら、食事を楽しんで頂く。食事前の机拭き、食後、おぼんを洗う等のお手伝いをされている。</p>	<p>今日はニコの演奏が流れていた。食卓のおかずのもずくや野菜のおしたしに話しがはずみ、食事の後は、お部屋で横になりおやつ時には食堂に帰ってこられます。</p> <p>理事長が作るお米、もち米、みそ、野菜、シソジュース、おやつの水ようかんなど心のこもった食材を提供しておられ、利用者様や家族様も幸せだと思っています。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士によるカロリー計算のもと献立、調理を行っている。食事量水分量は時間、量を記録し、各入居者の食事形態を掲げ、提供している。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアをして頂いている。出来ない利用者は、職員が介助を行っている。今後、歯科医の往診を検討している。</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表にて記録し、個別に排泄パターンを理解し、声掛け、誘導を行っている。出来る限り、夜間オムツの方は、日中はトイレでの排泄を目指している。</p>	<p>排泄チェック表は素晴らしく今までで一番見やすく、水、お茶、みそ汁、ジュースなど小まめに排便、排泄など計量され、利用様も職員も喜んで見守っているのが感心する。</p> <p>排泄チェック表に朝昼夕と、個別に排泄量を記録する。基本1000cc～1500ccですが、このホームでは目標の1500ccの方もおられ、職員も努力し、排泄をめんどうがらずに声掛け、誘導を行っている。これからも続けて頂きたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便も記録し、便秘の方は、水分の飲用、運動を心がけ、どうしても無理な場合はDr. に上申し、下剤の服用をして頂いている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員との都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日、時間は一応決めているが、利用者が入浴を拒否された場合は無理に入浴されず、時間を改めたり、曜日を改め、臨機応変に入浴を実施している。</p>	<p>理想的な支援をされていますが、日々色々な事があるので、様々な角度から見て新たな発見をし、より一層心豊かな支援を願います。</p> <p>週二回のシャワー喜ぶ人も居れば、拒み助けて殺してと大声、つねるひっかく、噛むなどの行為をされる方がいますが、上がる時には”ありがとう”と言って下さり、その一言で病気が言わせたとサラリと流せ、頑張った良かったと思う</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応し、休めないときや訴えあるときは、傾聴に努めている。また、Dr. への上申を行い、眠前の服用をされ、様子観察に努めている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は調剤の方に管理して頂いている。内服の変更時は申し送りを行い、様子観察に努めている。錠剤の服用が困難な方は、粉碎し、拒否のある方は、副食に混ぜ、服用に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いをして頂くことで、張合いを持って頂いている。洗濯干し、洗濯をたたむ、シーツ交換、モップ、等。植木の水やり、草むしりもされている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課で散歩を取り入れている。また、近隣の小学校の行事に参加されている。また、家族様より前もって外出の要望をされたときは、準備をし、スムーズに出かけて頂けるよう努めている。	散歩は車椅子の方と2人で外出している。家族様と外出される時はおしめを替えておき、おしめを一つでも渡しておく。食事は何を食べたか書いて頂く。	外出支援や地域の方々との交流を大切にされ、小学校の行事にも参加声掛け、笑顔などこれからも交流支援が続けられる事を望みます。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を所持されている方は一名のみ。ホームで必要時は出している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の希望があるときは、職員がお手伝いをさせて頂いている。可能な方は、年賀状作りをされている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のあるものを利用者とともに作り、貼り出したりしている。毎月、自身で塗り絵のカレンダーを作り、居室に貼っている。	浴室の窓から一畳くらいの中庭が見え、緑が綺麗で屏は竹で囲われ癒される。外観も駐車場に面して竹の屏が見えてとても感じが良く、格好が良い。	認知症の入居者様でも綺麗な花を飾れば、綺麗と喜んで頂けます、それを倒したりしません。これからも先入観にとらわれず、発見支援を願います。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファにて、気の合った人同士で、過ごして頂いている。リビングに書箱があり、マイペースに読書をされている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身が馴染みあるものを置かれたり、居心地の良い空間作りの手伝いをしている。また、職員が週に一度シーツ交換を実施し、環境整備を行っている。	ドアの横の窓は木枠で囲われて13~15cmくらいのガラスの出窓が少し開いているので、夜はドアを開けなくても部屋の様子が確認できます。職員も助かり入居者もドアの開閉で音が鳴らなく起こされない。圧迫感がなくてとても良い工夫がされている。	居室は使い慣れた物や好みの物を飾り、居心地よく過ごせる居室になっている。各部屋の外窓から花々や木の緑が見え、心地よく今後も支援の継続をされたたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には、大きく表札を提示し、わかりやすくしている。日中はリビングのトイレに行かれるが、安全を考慮し、夜間はベッド横にPCWを設置している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない